

※H28 学校経営、教育課程について（自己評価集計）

I 学校経営全般

評価項目		評価の観点 ●個人としての取組を評価 ・学校全体としての取組を評価	評価 4-3-2-1
教育計画	(1) 学校教育目標の具現化	●学年学級経営目標に具体的に位置付け具現化を図ってきた。	3.42
	(2) 学校教育計画の作成改善 (教育課程、各種年計、各実施計画等)	・学校経営方針、県市の方針、学校評価等を取り入れた計画になっていた。	3.47
校務分掌	(3) 学校運営の方針	●校長の運営方針をよく理解して職務を遂行した。	3.37
	(4) 校務分掌の遂行	●計画の見直しと改善を図り、意欲的に実践してきた。	3.32
開かれた学校	(5) 地域教育力の活用 ・ふるさと学習(自然、産業、歴史など)、学校支援ボランティアなど	・地域素材の教材化、地域人材の開発活用等は十分だった。	3.47
	(6) 学校開放の機会	・授業参観や学校行事(運動会、薬小祭等)を通じた学校開放の時期や内容は適当だった。	3.63
	(7) 家庭への情報発信	・HP、学校便り、学級便り等は適当だった。	3.63
	(8) 信頼される学校	・規範意識を高め、教育公務員としての自覚のある言動に努め、信頼される教師を目指した。	3.53

II 教育目標の達成状況・具現化

心ゆたかな子	(1) 児童への肯定的な関わりを通じた自尊感情と夢・希望の育成 自己有用感の育成 達成指標3.2	●学級経営を基盤にして、成就感や自己有用感を味わえる教育活動を展開するとともに、集団行動を通して望ましい人間関係作りを推進し、自尊感情、夢・希望の育成に努めた。	3.53
		●一人一人の良さを引き出す学年学級経営計画を立案し実践するとともに、T・Tや合同授業、交換授業等を通して児童の実態把握に努め、情報を共有しながら指導の工夫に努めた。	3.42
		●道徳の授業では、狙いに迫るための指導過程を工夫し質の向上に努めた。また、学校教育全体を通じて道徳性を養い、道徳教育の充実に努めた。	3.21
		・学校行事や体験活動の目標が明確で活動の場に工夫があり、意図的計画的に進めた。	3.47
		・特別活動やゆうゆうタイムの異学年交流活動を通して、思いやりの心やリーダー性を育てた。	3.53
		●朝の読書活動の習慣化に努めるとともに、学校図書館の効果的な活用を図って、読書活動を充実させた。	3.32
よく考える子ども	(2) 「学ぶ力」を育む学習指導の改善 学ぶ力、学び合いの育成 達成指標3.2	●「学ぶ力」「学び合い」に視点を当てた授業展開を目指し、明確な狙いの提示を心掛け、学びを実感できる授業の展開を図った。	3.47
		●ノート記録、話し合いや発表の仕方、情報収集や処理の仕方等の指導を重視し、学び方の習得と基礎的、基本的な内容の習得を図った。	3.32
		●評価規準計画の見直しを進め、学習意欲の向上と授業改善に生きる評価の工夫に努めた。返事、挙手、発言、話し合いの仕方など学習規律の定着が図れた。	3.00
		●話し合いや表現の場を意図的に設定し、言語活動を充実させた。また、問題解決的学習や体験的学習を推進し、課題を解決する学習活動の充実を図った。	3.53
		●教材開発やICTの活用等、児童の興味・関心を高める工夫をして、主体的に学習に取り組む態度を育成することができた。	3.26
たくましい子ども	(3) 全教育活動を通じた、たくましい心と体づくり 安全指導の徹底 達成指標3.2	●運動量の確保と楽しさを保証した授業を工夫し、健康の保持増進及び体力の向上を図り、教科体育、体育的行事の充実に努めた。	3.53
		●家庭との連携を図り、健康な生活習慣(手洗いやうがい、歯磨き等)作り、安全な生活習慣(校舎内外の安全生活や危険の予知、安全な登下校)の育成に努めた。	3.26
		・休み時間の外遊びの奨励、学年学級やなかよし班での共有を推進するとともに、持久走や縄跳びへの意欲付けと業間運動を計画的に実施し、運動や外遊びの日常化に努めた。	3.47
		・外部講師の活用や給食指導等を通して食育を推進し、望ましい食習慣の形成に努めた。	3.58

教育課程実施上の基本方針	(4) 一人一人の良さを認め育てる児童指導の推進	・「生活のきまり」を活用し、共通理解の下、全教育活動を通して善悪の判断や自己の生き方について考えさせる指導に努め、基本的な生活習慣と規範意識を身に付ける指導の徹底に努めた。 ●コミュニケーションスキルを身に付ける活動や、友達と関わり合う体験を重視して、児童と教師、児童相互の好ましい人間関係の醸成に努めた。	3.37
		・報告・連絡・相談を密にし、教育相談体制を整え、問題行動等委員会を適宜開催し、組織的かつ迅速に対応できた。	3.68
	(5) 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実	・コーディネーターを中心に、個別の指導計画に基づいた指導を全校体制で取り組むとともに、児童一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導や必要な支援を行った。	3.63
	(6) 人権尊重の精神を涵養する人権教育の推進	●各教科等において、人権教育に視点を当てた授業の実践に努めるとともに、人権が尊重される雰囲気作りを努めた。	3.32
	(7) 学校間の継続性、系統性ある教育活動の推進	・相互授業参観や情報交換会、小中交流などを実施して、幼保・小・中間の連携が図られた。	3.32
	(8) 生き方を考えるキャリア教育の推進	●キャリア教育の視点を踏まえた授業を展開し、生き方や職業、勤労への考えを深めさせた。	3.26
	(9) 情報教育の推進	●パソコンや図書、新聞等の情報手段の活用を各教科等で計画的に実施するとともに、情報モラルに関する指導を計画に位置付けて、系統的に指導した。	3.21
	(10) ふるさと学習の推進	・学校行事、各教科、総合的な学習等を通して、地域の歴史や文化への理解と住民との連携を深める「ふるさと学習」を展開し、ふるさとを愛し誇りに思う気持ちの醸成に努めた。	3.53

### Ⅲ 学校課題

職員研修	(1) 学校課題の研究推進	・学校課題の設定、研究の組織や進め方は適切だった。	3.58
		・より良い授業作りに向け、授業の提案、研究会が継続的に実施できた。	3.58
	(2) 現職教育の充実	・研修や会議の時間が十分に確保され、研修内容が充実した。	3.32

### Ⅳ 教育課程の改善

年間計画	(1) 各教科等の年間指導及び評価計画の実施・改善	●年間指導（評価）計画の見直しができた。	3.05
日課・週時程	(2) ゆとりある日課・週時程・時数の確保	・普通、特別、業間日課は適切に実施された。	3.74
		・各教科等の週時程（ＡＢ時間割）は適切であり、時数確保はできた。	3.63
		・読書の時間（朝学）、業間活動（集会や運動）、ゆうゆうタイムは有効だった。	3.74
各教科	(3) 各教科指導の充実	●各教科の時間が確保され、学習内容を着実に進めることができた。	3.21
道徳	(4) 道徳教育の推進	●毎週の道徳の時間を確保し、指導法を工夫し充実したものになった。	3.11
特活	(5) 特別活動の充実	・学校行事、児童会活動、クラブ活動の時数が確保され適切に行われた。	3.63
総合	(6) 総合的な学習の時間の充実	●地域の特色や身近な生活などから課題を見付け、探究的な学習に取り組めるよう支援した。	3.42
外国語	(7) 外国語活動の充実（低・中学年も含む）	●外国語活動は指導法を工夫（ALT任せでなく）し、計画的に実施できた。	3.21

### Ⅴ 庶務・管理

事務	(1) 文書管理	・文書の收受・発送・伝達・保存は適切に行われた。	3.63
	(2) 服務	・出勤簿、出張命令、復命書、休暇簿等の整理は適切であった。	3.53
会計	(3) 学校集金	・学校集金の事務処理（金額設定、会計処理）は適切だった。	3.47
	(4) 予算	・行事への公費予算や消耗品予算は適切だった。	3.37

# 学校評価改善策

下野市立薬師寺小学校

班	主な内容
A	<p>「心ゆたかな子ども」</p> <p>人間関係作り、一人一人の良さを引き出す工夫、道徳性、異学年交流、読書活動、生活の決まり、清掃活動等</p>
<p><b>改善策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳について、先生方の研修を受ける機会を増やすように現職教育の時間をできるだけ位置付ける。</li> <li>・学校教育全体を通じて道徳教育を養うために、あいさつ運動等委員会活動を中心に組み組めたら良い。生活委員会を中心に進める。</li> <li>・朝の読書は大変良い。朝の学習も効果がある。来年度、朝の活動は月・火・水曜日を読書、木・金曜日を学習の時間と位置付ける。</li> <li>・清掃の縦割り班のメンバーについては、年3回を年2回にする。本年度清掃主任が変更を検討中である。</li> </ul>	
B	<p>「よく考える子ども」</p> <p>授業の展開、話し合い活動、学習規律、言語活動、ICT活用、情報教育、ふるさと学習、年間指導計画、各教科の時間確保、道徳教育の推進、外国語活動、学校課題等</p>
<p><b>改善策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画は、朱書を書き入れてる。返事、挙手、発言、話し合いなどの学習規律の指導は重要である。</li> <li>・現職教育に年間指導計画の見直し反省の時間を設け、教科部会での活動の時間を位置付ける。</li> <li>・現職教育の時間の見直しを行い、教科部会の時間や、学校課題の事前授業研究の時間を確保する。</li> <li>・教科指導の充実では、教科に関する出前授業を優先する。</li> <li>・ふるさと学習は、総合的な学習に組み入れる。低学年は、生活科で実施する。</li> <li>・総合実施で、ふるさと学習主任と総合的な学習の時間主任がともに検討する。</li> <li>・道徳は、教科化に向けて授業の記録の積み上げをしていく。</li> <li>・外国語の授業力向上のために、夕顔カフェならぬレニカフェを実施できないか。</li> <li>・道徳の推進も考え、学年だよりに道徳コーナーを設け、保護者も含めた道徳教育の推進とお知らせやお願いを伝える。</li> </ul>	
C	<p>「たくましい子ども」</p> <p>健康な生活習慣、安全な生活習慣、休み時間の外遊び、食習慣の形成、等</p>
<p><b>改善策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣の定着をさせるために、学校保健給食委員会の充実を図るとよい。組織の改正や実施方法の工夫をしていくとよい。また、学年便りや保健便り等で、衛生検査の取組を知らせ、ハンカチ携帯・爪の清潔などの啓発をしていくとよい。学校保健給食委員会は規模を拡大して、充実を図る。</li> <li>・歯みがき指導の徹底をするために、給食指導と連携して行っていくとよい。放送で、歯みがきタイムの音楽が流れているが、流す時間を12:55分に徹底したり、歯みがきしやすい音楽を流したりするとよい。今流れている英語の音楽は、給食時間中に流すとよいのではないかと。次年度はチャイムに組み込んでよいのではないかと。水道の混雑などを鑑み、時間の統一とチャイムは導入せず、各学年実施で行う。</li> <li>・登下校の安全指導については、学校での取組（立哨・交通安全教室等）を学校便りや学年便りで継続して啓発をしていく必要がある。登下校のグレーゾーンに対しては今後も検討が必要であり、時間をかけて検討していく。</li> <li>・今年度実施の各学年の食育授業は是非保護者に見てもらう。</li> </ul>	

D

校務分掌、開かれた学校、現職教育、予算、備品購入の基準や方法、年間を見通した予算の使い方、文書やデータの適正な保存、等

## 改善策

### 【地域教育力の活用】

- 学校ボランティアへの連絡は、文書による勧誘、すぐメールの活用などを実施する。
- 学校ボランティアは一度の参加でも積極的に勧誘し参加の枠を広げていく。
- 来年度の学校ボランティアの募集は、学校お助け隊を念頭において、現ボランティアコーディネーターと検討中である。募集方法は2回の文書募集だけでなく、随時受け付ける体制をとること、具体的なボランティア内容を明確にした募集など工夫していく。
- 市のボランティアバンクを活用する。
- ボランティアの保険について、現行の学年費支払いを止め、振興費からの支出を考える。
- ふるさと学習については内容の検討が必要である。古代米の餅つきも今後無くなることが予想され、ボランティアの方の説明も内容検討が必要である。市の文化課木村さんとの交渉が必要である。また、来年度は時数確保のため学校行事から総合的な学習の時間で実施する。

### 【開かれた学校】

- 薬小祭の授業参観はなしとして、学年発表会の場を設ける。2校時各学年5分程度の発表を体育館で行い、保護者に公開する。
- 1年間を通じて、児童の表現する力を高めるため、業間の集会時に「学年発表」の場を設ける。各学年1回で、計6回ほど設ける。業間集会時他のものとは混在せず実施する。
- 12月の授業参観における携帯電話講習は行わないこととし、通常の授業参観とする。携帯電話講習は検討する。
- 学校開放の機会が少ないため、2日間ほどの学校開放日を設定する。なお駐車場の問題があり、全て徒歩あるいは自転車での来校を条件とする必要がある。可能かどうかは要検討である。

### 【庶務・管理】

- 服務については基本であり、個の責任においてしっかりと取り組んでいただく。
- 会計処理に関する集金は、来年度の会計計画が出てから検討するが、前期に学年費の集金、後期に旅行積み立て・卒業準備金の集金を計画している。
- 給食費は来年度4300円から4500円に値上げとなる。